

## 第1章 伊奈町の現況

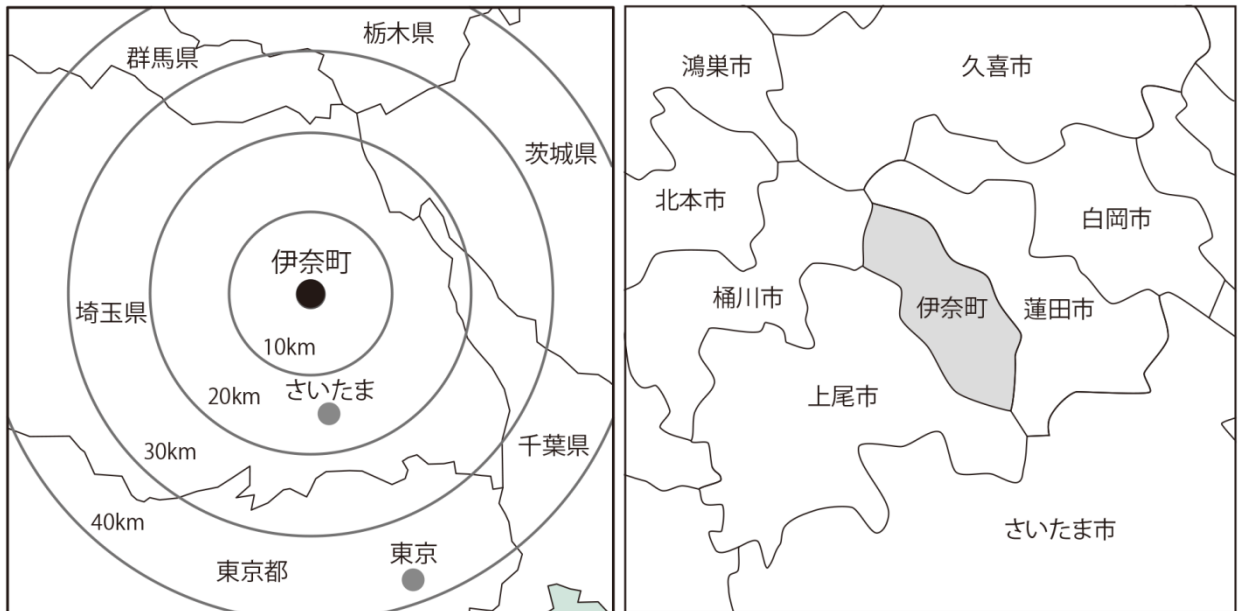
### 1-1 伊奈町の地理的位置

#### (1) 位置

伊奈町は、埼玉県ほぼ中南部にあり、都心から40kmの首都圏近郊地帯に位置しています。

東は蓮田市、西は上尾市、北は桶川市に接する東西に2.5km、南北に7.5km、面積14.79km<sup>2</sup>のおおむね楕円形で標高8～18mの沖積層、洪積層からなる肥沃な平坦地です。

かつては、米・麦作を中心とする農村地帯でありましたが、土地区画整理事業による新しい都市づくりが進められるなか、都市化の波とともに人口が急増しています。



#### (2) 成り立ち

伊奈町一帯は古くから農耕が営まれ、江戸時代には関東郡代伊奈備前守忠次による勧業治水により水田地帯として開け始めました。

昭和18年に小室村と小針村が合併して「伊奈村」となり、農村地帯として発展してきました。その後、昭和35年以降、高度経済成長時代となり住宅建設や工場の進出が進み、昭和45年には人口が1万人を超え、同年11月1日に町制を施行し「伊奈町」となりました。

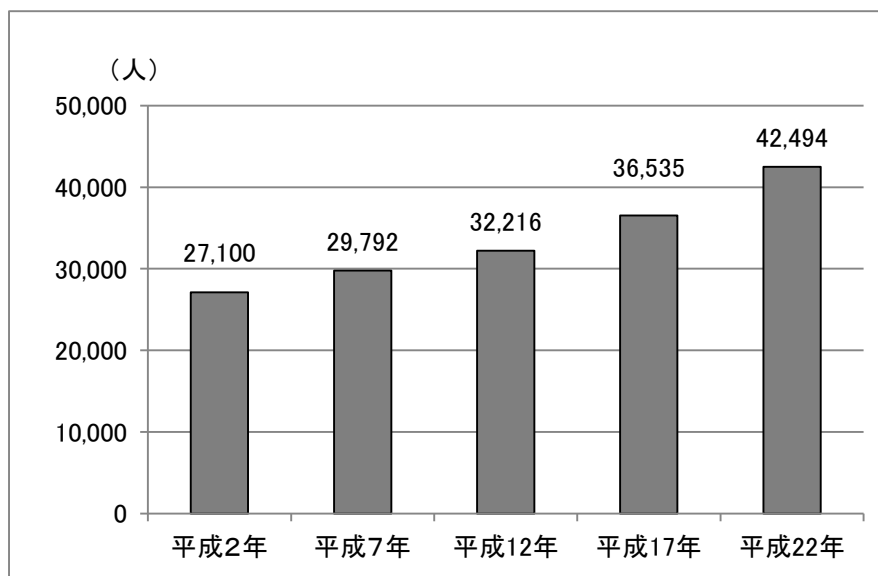
昭和58年には東北・上越新幹線の開業にあわせ、その高架を利用した埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）が開業し、町内に丸山、志久、伊奈中央、羽貫、内宿の5駅が誕生しました。これにより町へのアクセスが向上し、県民活動総合センターや県立伊奈学園総合高等学校・中学校などの県の施設も多く立地しました。また、内宿駅、羽貫駅及び伊奈中央駅周辺では土地区画整理事業の施行により良好な環境の住宅地が供給されたことに伴い人口は大きく増加し、平成22年国勢調査によれば人口増加率は県内で1位、全国でも5位と、町は大きく変貌しています。

# 第1章 伊奈町の現況

## 1-2 人口・世帯

### (1) 人口

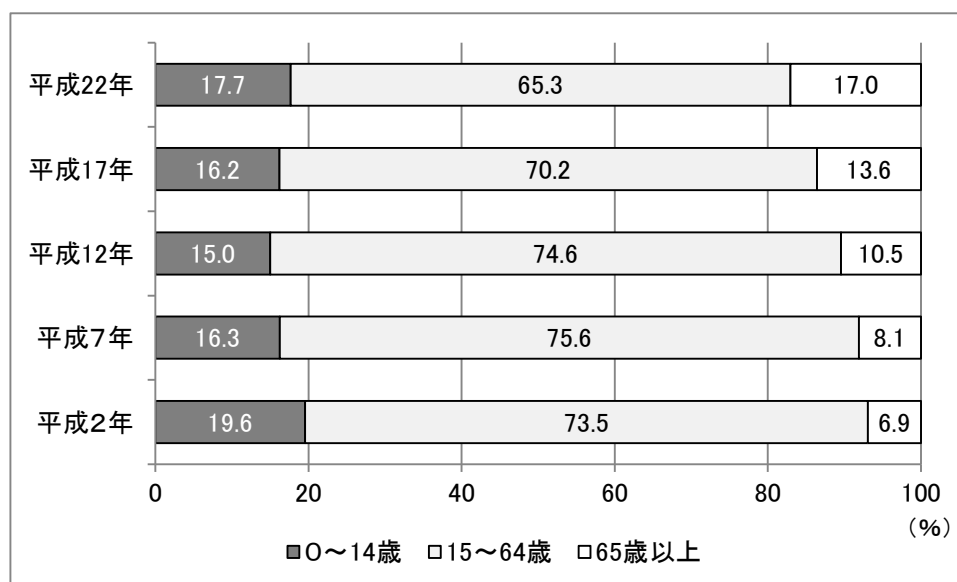
国勢調査でみますと伊奈町の人口は、一貫して増加傾向にあります。平成2年は27,100人でしたが、平成22年には42,494人と1.57倍となっています。近年、全国的に人口減少が言われるなか、直近の10年で比較しますと31.9%と高い増加率を示しています。



資料：国勢調査

### (2) 人口構成

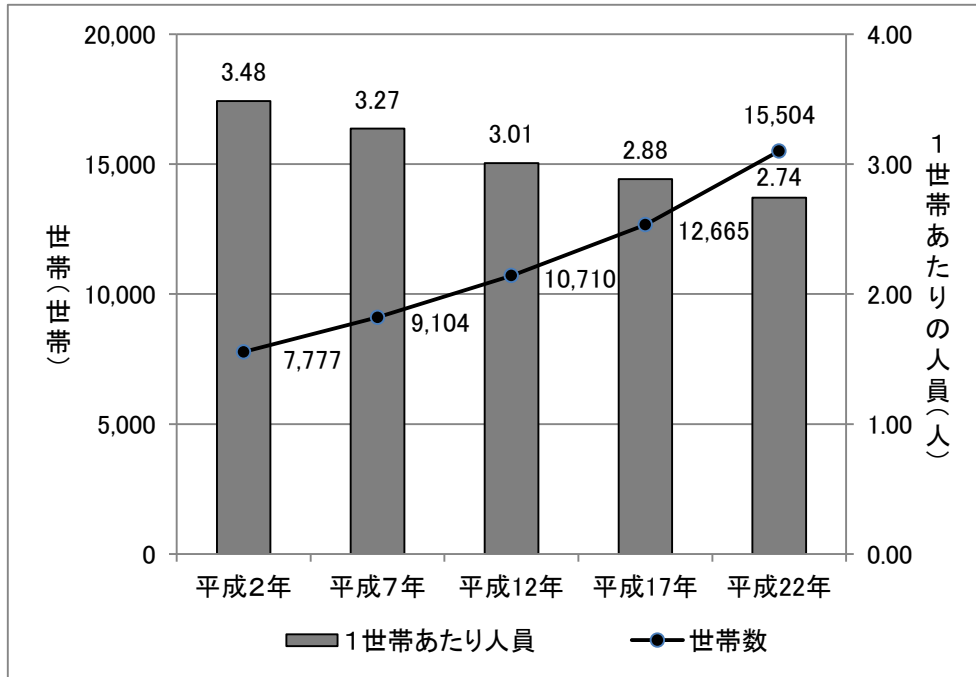
年齢3区分別人口の推移をみますと、年少人口（0～14歳）は、平成2年の5,299人と比較すると平成7年と平成12年には減少しましたが、その後は増加に転じ平成22年には7,506人となっています。生産年齢人口（15～64歳）は、平成2年では19,901人でしたが、年々増加し平成22年には27,740人となっています。高齢人口（65歳以上）は平成2年の1,873人から増加し、平成22年には7,232人となり総人口の17.0%を占めています。



資料：国勢調査

(3) 世帯数

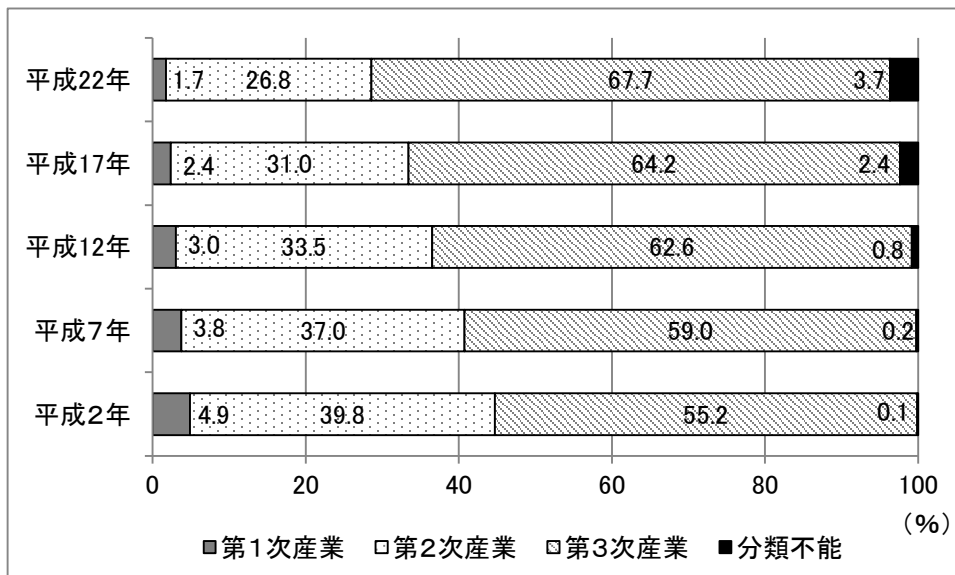
平成 22 年国勢調査の結果では 15,504 世帯と人口とともに増加していますが、1 世帯当たりの人員は 2.74 人と減少しています。



資料：国勢調査

(4) 就業人口

産業別就業人口をみますと、第1次産業は平成2年の679人から一貫して減少傾向にあり、平成22年においては約半数近くまで減少し357人となっています。第2次産業就業者は、平成7年に5,895人とピークに達し、その後は増減しながら平成22年には平成2年とほぼ同数の5,502人となっています。第3次産業就業者は平成2年から増加傾向にあり、平成22年には13,883人と平成2年と比較すると82%増加しています。



資料：国勢調査

## 第 1 章 伊奈町の現況

### (5) 通勤・通学状況

就業者及び通学者のうち、平成 22 年の伊奈町常住者は、22,580 人となっておりますが、町外へ通勤・通学する人は 15,321 人 (67.9%) となっております。また、町外から本町に通勤・通学する人は 13,208 人となっており、流出する人数が 2,113 人超過しています。

就業者のみで見ますと、平成 22 年の町内常住者 20,495 人のうち 13,925 人 (67.9%) が町外に流出しており、9,065 人が町外から本町に通勤しています。

通勤・通学者は流出傾向ではありますが、町内での就業者及び通学者は増加傾向にあります。

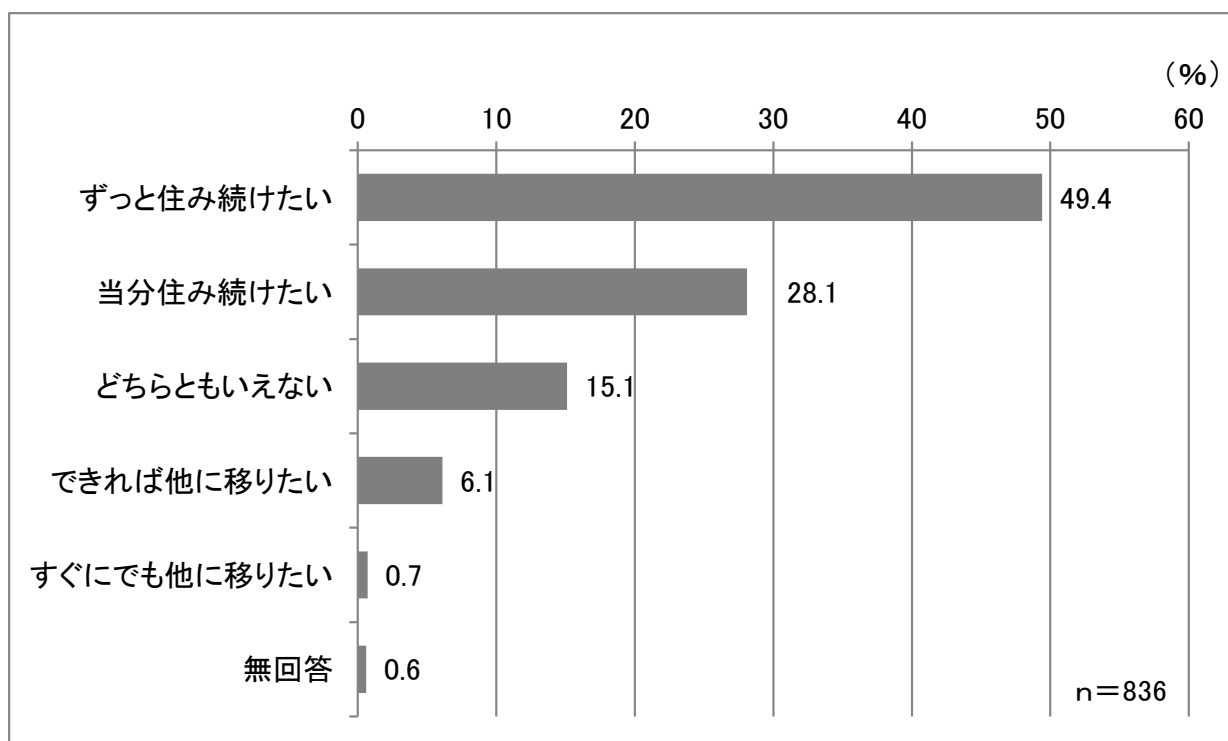
	昼間人口 (人)	就業者数及び通学者数				うち就業者数			
		伊奈町が従業地・通学地		伊奈町が常住地		伊奈町が従業地		伊奈町が常住地	
		総数 (人)	うち他より 流入(人)	総数 (人)	うち他へ 流出(人)	総数 (人)	うち他より 流入(人)	総数 (人)	うち他へ 流出(人)
平成 2 年	25,181	14,877	8,921	16,741	10,785	10,546	5,249	13,833	8,536
平成 7 年	27,819	16,676	10,437	18,614	12,375	12,305	6,613	15,939	10,247
平成 12 年	31,155	18,342	11,831	19,321	12,810	14,122	8,098	17,191	11,167
平成 17 年	36,183	20,208	13,143	20,692	13,627	15,494	9,133	18,633	12,272
平成 22 年	40,792	20,789	13,208	22,580	15,321	15,891	9,065	20,495	13,925

資料：国勢調査 各年10月1日現在

## 1-3 町民意向調査の結果

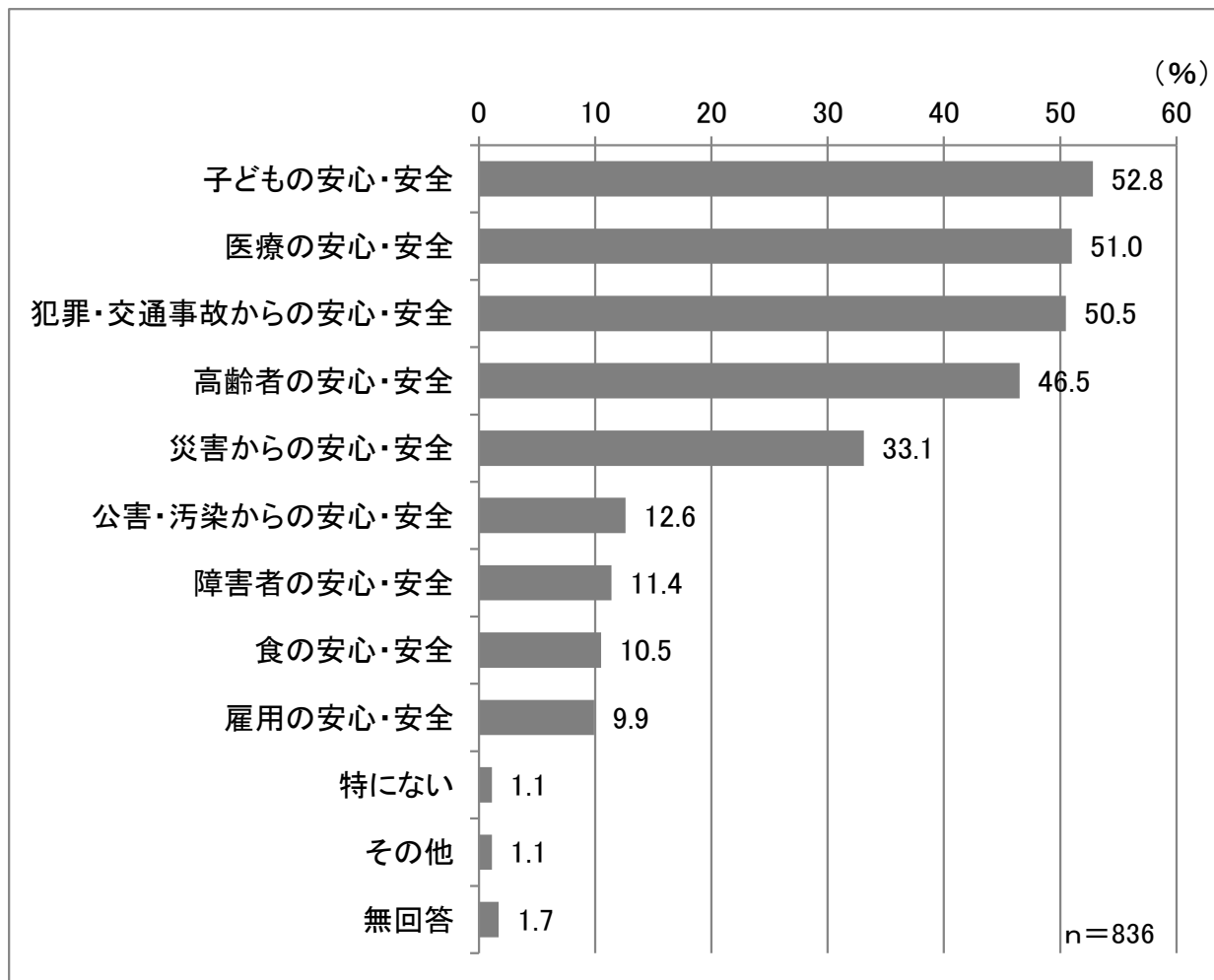
## (1) 今後の居留意向

今後の居留意向は、「ずっと住み続けたい」が49.4%と最も多く、次いで「当分住み続けたい」が28.1%となっており、本町に住み続けたいと考えている方は77.5%となっています。



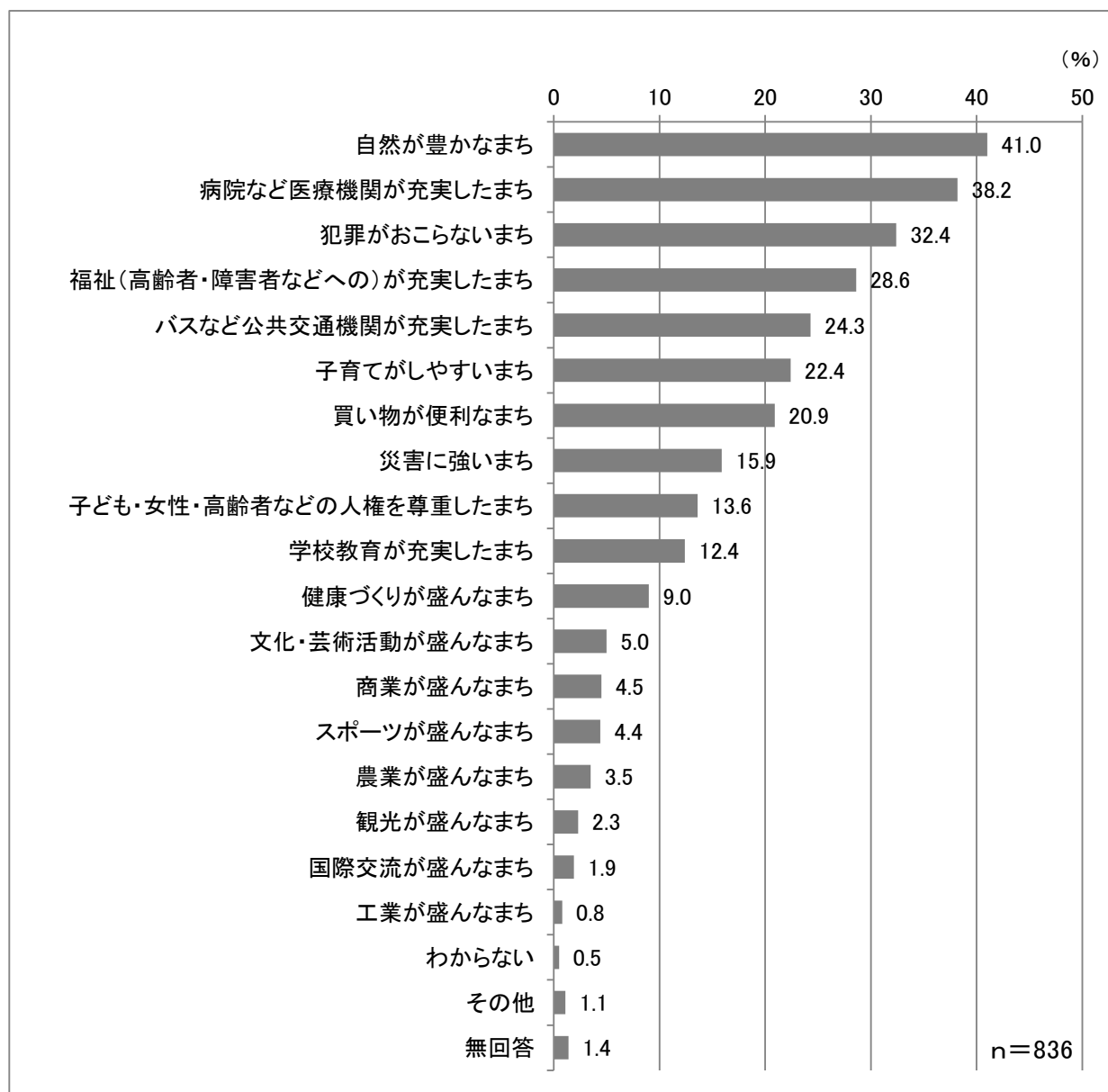
(2) 伊奈町の将来像や今後の都市づくりについて

「安心・安全」の都市づくりで今後重要になると考える項目は、「子どもの安心・安全」が52.8%と最も多く、次いで「医療の安心・安全」が51.0%、「犯罪・交通事故からの安心・安全」が50.5%となっています。



## (3) 伊奈町の将来のすがた

今後、伊奈町がどのようなまちになってほしいかについては、「自然が豊かなまち」が41.0%と最も多く、次いで「病院など医療機関が充実したまち」が38.2%、「犯罪がおこらないまち」が32.4%となっています。



(4) これからの都市づくりで重点的な整備していくことが望まれること

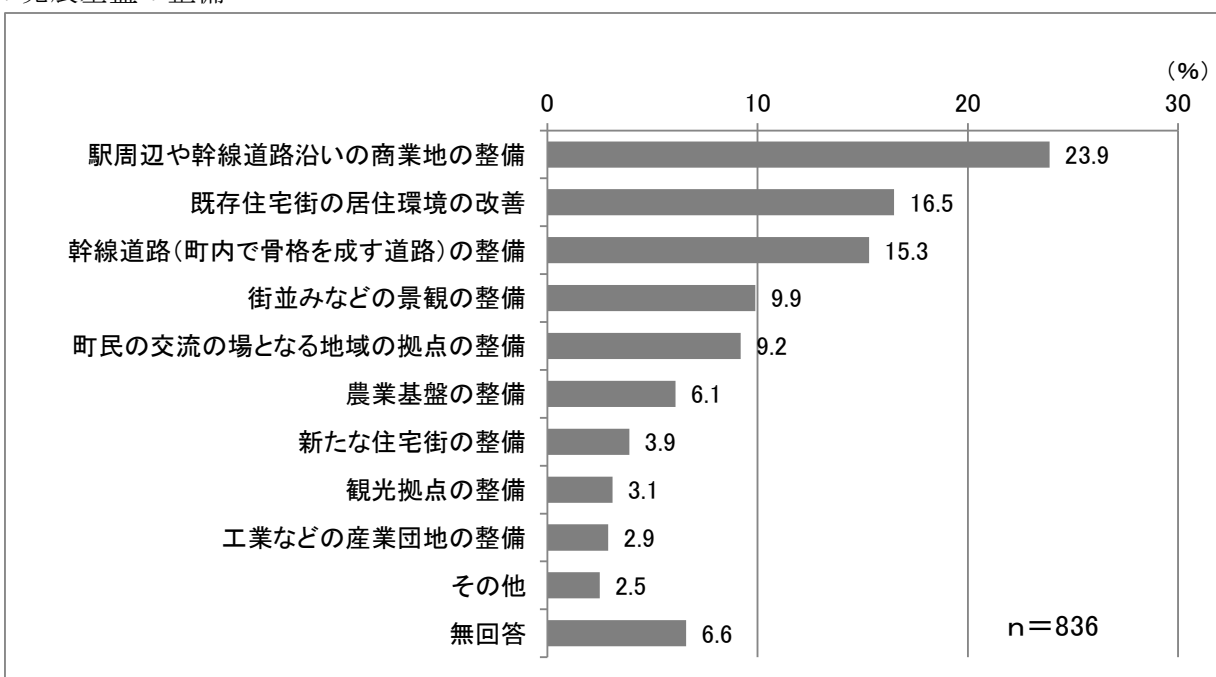
①町の発展基盤の整備

町の発展基盤で重点的に整備が望まれることについては、「駅周辺や幹線道路沿いの商業地の整備」が23.9%と最も多く、次いで「既存住宅街の居住環境の改善」が16.5%、「幹線道路（町内で骨格を成す道路）の整備」が15.3%となっています。

②生活環境の整備

生活環境で重点的な整備が望まれることについては、「身近な道路の整備」が22.0%と最も多く、次いで「地域防災対策」が17.5%、「公園・緑地の整備」が14.7%となっています。

①町の発展基盤の整備



②生活環境の整備

